

# 学園ニュース

富山大学

No.23

編集 学園ニュース編集委員会 発行 富山大学

昭和 52 年 7 月 8 日

## Faculty of Literature and Science

理学部長 竹 内 豊三郎

何年か前のことである。文理学部の教職員の親睦会のバス旅行で佐渡へ行ったことがあった。ひる食を予約してあったレストランの入口に来て皆が驚いた。案内用の告知板に「富山大学分離学部様」と書いてあったからである。佐渡は本州から分離した島の印象があったためかも知れないが、なかなか穿<sup>うが</sup>った表現をしてくれたものだ。

“Faculty of Literature and Science” これは文理学部の英訳である。このような訳が決まったのは、もう20年以上も前で、蓮町の古い校舎の教授会で論議をされてこのようになった。

この学部から今年の春までに、もう25回もの卒業生が送り出されている。今年の5月から、この学部が本当に分離されて人文学部と理学部とになった。人文学部をどう訳されるかは知らないが、理学部は“Faculty of Science” といえはよいはずである。大変明快にきこえるようになった。

昨年の夏ロンドンで国際触媒会議があって、私も参加した。3日目の夜、カクテルパーティがあって、余り広くもないGeological Museumのホールが超満員となった。その混みあう中から女性で著名なポーランドのFrackiewicz博士のふとった体が現れた。彼女は4年前のマイアミでの会議で講演したとき、私の短い質問に長い答弁をした。彼女がすれちがうとき、私をおぼえているかとたずねたら、イエスといってから、

あなたは文学の中で化学をやっているから印象的で忘れないといった。冗談で言ったのか、Faculty of Literature しか頭になかったのかはきいてみなかった。

2年程前にオランダからSachtler教授が日本に招へいされた。彼は触媒化学の領域では世界の第一級に属している。彼と東京で半日、仕事のことで話し合った後、お茶を吞んで雑談になった。彼は私の所属する学部についてかねがね疑問があったようだ。文学と自然科学とがどうして一つの学部を構成しているのかとたずねた。ドイツ生まれで、ドイツの大学を卒業している彼の質問は、大学の最も古い歴史をもつヨーロッパにおける習慣と、ドイツ人特異な合理性のうえに立っている。さらに、修士も博士のコースもない自然科学の大学における研究の体制については、もっと不思議に思っらしい。私は、彼のいうような体制に変えることは望ましいが、なかなか政府が許可しないであろう、その理由のひとつに経済的な因子をあげたが、彼は納得出来ないようであった。彼の頭には連日大勢の観光団が日本からヨーロッパに来て、両手に持てないほどの土産を買って歩いているのがあるからであろう。

3年後の国際触媒会議は日本でということになったから、またこの2人にも会えるであろう。今度はLiteratureがとれてFaculty of Science になったといわなければならない。

## 建前と本音 (たてまえとほんね)

教育学部長 坂 井 誠 一

私は戦後30年間、幕藩体制下の政治や経済を、村や町の段階までおろした庶民の立場で、在地史料の徹底

的調査と、既知の史料の洗い直しによって調べてきた。その結果、最近になって、この時代の真実を捉える上で重要な手がかりを得たように思う。

例えば、有名な寛永の田畠永代売買禁令についてみよう。幕府は周知の通り、寛永20年（1648）に田畠の永代売買を禁止した。通説によれば、諸藩もこの幕令に準じて田畠売買を禁止したが、年貢の納入等に行き詰まった農民は、天領・私領を問わず、質入・年季預などの手段で、田畠の実質的売買を行った結果、有力農民による土地集積となって、いわゆる寄生地主等が発生したことになる。

ところで、百万石加賀藩においては、さきの幕令より早く元和元年（1615）に田畠の永代売りが禁止され、この政策は慶安（1648～）から明暦（1655～）にかけて実施した改作法（かいさくほう）においても継承されたが、元禄6年（1692）に至って、藩はこの政策を転換して、切高仕法（きりだかしほう）という法令を出して田畠売買を解禁した。この加賀藩の切高仕法は、寛永以来の幕令に反して田畠売買を公認した特異な例として、学問的にも注目されているものである。それはともかく、加賀藩では、元禄の切高仕法実施までは、天領と同様に田畠の売買が公式に禁止されていたはずである。

然るに、私はこの間の田畠売買証文を、越中の加賀藩領で46通蒐集した。このうちの半数は、形式上置質、年季預で、いわば合法的なものであるが、残り半数は非合法的な永代売証文である。非合法であるということは、もしこの事実が藩当局に知れた場合、売買は無効、関係者は処罰されることになる。しかも驚くべきことには、この売買証文に十村（とむら）役人が村肝煎と

ともに奥書署名している事実がみられる。加賀藩の十村は、身分は農民であるが、農民の代表として藩の官僚機構の末端に連なり、藩農政の責任者である改作奉行の命をうけて、農民に直結しながら藩農政を推進する役割を担っていた。この十村が田畠売買証文に署名しているのであるから、田畠売買は半ば藩の公認のもとに行われていたと解することが出来よう。したがって加賀藩領では、田畠売買禁止という法令はあくまで建前であって、実際には主として年貢の収納のために、田畠の売買が合法・非合法の両手段で、かなり活発に行われていたとみることができよう。藩当局者の本音は果たしてどのようなものであったであろうか。

同じことは、改作法そのものの評価についてもいえるようである。改作法の実施された17世紀半ばよりこんにちに至るまで、改作法は農本思想に基づく善政であったという評価が、藩農政家たちより郷土史家に至るまで、連綿として続いてきたが、改作法下農民の実態は、この建前とは大分違っているようである。

私は、改作法前後の法令等の詳細な分析と、各村々に対する年貢割付状による年貢額の集計からみて、改作法は20%に及ぶ大增税を、農民の抵抗なく円滑に実施する。まことに巧妙な政策であったと断定せざるを得ない。ここにも建前と本音の違いを見出すことができる。

近世封建社会は、儒教倫理に裏付けされているがために、殊に建前論が目立つのかも知れないが、こんにちの政治や経済、はては教育に至るまで、建前論が鼻についてならないのは、古文書の読みすぎによる私の偏見であろうか。（1977.5.30）（1977.4 文学博士の学位取得）。

## 微生物とのつきあい

薬学部長 柳 田 友 道

私は戦争の終わった翌年、東大理学部で田宮博先生の門をたたいて微生物とのつきあいはじめた。当時3人の子供をかかえて、無給である苦しい時代を約1年間も無事に過ごすことができたのが全く不思議でならない。以来今日まで私の相手になってくれた微生物は、種々の細菌、カビ、酵母、キノコ、繊毛虫、藍藻、そして微細藻類といった種々雑多なものとなった。こうなったのは、生物細胞の成長、老化、形態形成といった現象を微生物を材料として研究しようという考え

から、自分の研究目的に合ったものなら何でも採用したからである。

さて現在の生物学はまさに爛熟した時代に入っているといえよう。私が歩んできた時代は、今の爛熟時代を築きあげた急成長の時代であった。ノーベル賞を受賞したリーダーバーグらが1947年に大腸菌にも性のあるものがあることを発見して以来、「分子生物学」という名の新しい学問が生まれた。研究は微に入り細にわたってゆき、すべての生物現象を分子レベルで解明し

ようという努力が世界中で集約的に展開された。とかく急成長時代には、経済の場であれ学問の場であれ、競争の原理が先行する。この時代に生きてきたわれわれは、ついてゆくだけでも大変だった。今から考えると私にとってそれが長帳場だっただけに、戦後の無給時代より遙かにしんどかった。

こんな時代に私を支えてくれたのは田宮先生の日頃の言葉だった。「仕事をするには毎日頭の中で論文を書きながらやれ。ひとつの仕事がまとまったら、一日も早く“お通じ”をしろ。」この他に私達弟子共の心の支えになった田宮語録は数々あるが、ここでは上の言葉について説明しておこう。実験科学者は研究を進めるに当たって、ひとつの目的にそって実験計画をたて、それに従って実験する。しかし計画通りに研究が進むとは限らない。予想もしないことが次々に起こってくる。これこそが研究者の味わう何よりの醍醐味なのである。ここで田宮先生の手紙が生きてくる。毎日所期の目的にそった論文を頭に描いていれば、そんな時、枝葉末節の方向に走らずにすむのである。若い時は仕事の途中でなにかに変わったことに遭遇すると、大発見でもしたような気になって、自分の研究の本筋を忘れてしまって、いつの間にかそちらの方向に走ってしまうことがある。そんな時こそぐっと我慢して、その問題は宿題としてとって置いて本筋の研究に眼を向け

ねばならないのだ。本筋をまとめたあとでじっくり宿題を考えた方が、宿題の解決も早いのである。次に“お通じ”の話に移るが、誰でも便秘しているときの気持ちがいやなことは御存知であろう。ひとつの仕事がまとまったら、その手で論文を書きあげて、さっさと世に出してさっぱりしろということである。長い間寝かせておいた仕事を論文にまとめるぐらいいやなことはいない。寝かせている間によそで同じような論文が出てしまっ

てペソをかくという経験はよくあることである。

私は2年前に富山に来てから、仕事の内容を大幅に転換した。これまでは主として試験管内で純粋培養した微生物の性質をしらべてきたのだが、ここへ来てからは実験室と自然の海や河との間を行ききしながら、自然の中で様々な微生物がどのように生活しているかという姿をつきとめる方向に変えたのである。この研究分野は分子生物学とは異なり、競争相手も少なく、また未開拓な分野でもあるので、初心に返って落ついて仕事できるのが魅力だ。しかし未開の分野だけに文献の数も少なく、実験手段からして自分なりのものをひとつひとつ作ってゆかねばならない。従ってこれまでの研究とは違って、どうしても“便秘気味”になる。そんなとき薬（他人の文献）の厄介にならずに自力で“お通じ”をするための努力をせねばならないが、これが若返りの道にもつながると私は信じている。

## 新 任 教 官

- 寺津 典子 講 師（人文学部） 52.4.1  
昭51. 3 東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了  
担当：英語学
- 浅沼 照雄 講 師（教育学部） 52.4.1  
昭52. 3 大阪大学大学院理学研究科博士課程修了  
担当：代数学及び幾何学
- 三浦 鏡子 講 師（教育学部） 52.4.1  
昭50. 3 東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程修了  
担当：家庭科教育
- 清水 建次 講 師（教育学部） 52.4.1  
昭51. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科博士課程修了  
担当：物理学

- 辰巳 昭典 講 師（教育学部） 52.4.1  
昭50. 3 愛知県立芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了  
担当：器楽
- 山崎 高哉 助教授（教育学部） 52.4.1  
昭42. 3 京都大学大学院教育研究科博士課程単位取得  
担当：教育史
- 樋口 哲 助教授（教育学部） 52.4.1  
昭20. 9 東京高等師範学校芸能科卒業  
担当：絵画
- 小郷 直言 助 手（経済学部） 52.4.1  
昭52. 3 大阪大学大学院経済学研究科博士課程単位修得  
担当：経営実務論
- 池田 栄雄 助 手（経済学部） 52.4.16

昭51. 3 富山大学文理学部理学科(数学)卒業  
担当：経営実務論  
○武井 勲 講 師 (経済学部) 52.4.1  
昭49. 6 米国ミネソタ大学大学院経営学修士課程修了  
担当：流通論  
○出井 文男 講 師 (経済学部) 52.4.1  
昭50. 3 神戸大学大学院経済学研究科修士課程修了  
担当：国際経営論  
○北野 孝一 教 授 (理学部) 52.4.1  
昭43. 3 東北大学大学院理学研究科修士課程修了  
担当：解析学  
○黒田 重靖 助 手 (工学部) 52.5.1  
昭47. 3 東北大学大学院理学研究科修士課程修了  
担当：有機合成化学  
○伊里 松俊 講 師 (教養部) 52.4.1

昭50. 3 名古屋大学大学院文学研究科修士課程修了  
担当：英語  
○小林久寿雄 講 師 (教養部) 52.4.1  
昭48. 3 広島大学大学院理学研究科修士課程修了  
担当：数学  
○勝野 良一 講 師 (教養部) 52.4.16  
昭50. 3 京都大学大学院文学研究科修士課程修了  
担当：フランス語  
○ローラント・シュミット 外国人教師 (文理学部 教養部) 52.5.2  
1977. 3 チュービンゲン大学マギスターの学位取得  
担当：ドイツ語  
○島田 和夫 講 師 (短 大) 52.4.1  
昭46. 3 東京都立大学大学院社会科学研究科修士課程修了  
担当：商法・経済法

## 新任のことは

教育学部講師 浅 沼 照 雄

私の1日はコーヒーより始まります。コーヒーを飲みながら今日1日の予定を思うことなく頭に描く。学生時代からの私の習慣です。何時から何の講義がある、何のセミナーがあると思いをめぐらすことは学生の時と変わっていませんが、この4月から大きく変わったことは、受ける側から、する側にまわったということです。9年間の学生生活を終わり、大阪から富山に来

てからもう2か月以上たって、富大にも、富大の学生にもなれて……といたいところですけど、なかなか…右往左往することばかり。女子学生が多いことにも少々面くりましたが、しかし、ようやく落ち着いてきた今日この頃です。これからも自分なりに精一ぱい頑張っていきたいと思っています。

## 新任に際して

教育学部講師 三 浦 鏡 子

去る4月、車窓に日本海をながめながら、喜びと期待をもって、はじめての土地富山市に降りたちましたが、再びアカデミックな環境にもどることが出来まして、うれしく思っております。

まだ着任して日も浅く大学の様子もよくわかりませんが、雪をいただいた立山連峰や日本アルプスの山々の雄大な姿、神通川の豊かな速い流れなど、毎日ながめております。また、桜の開花や柿の芽ぶきなどは、故郷の福島よりも7日余りも早く、気候も幾分暖かく

感じられます。言葉づかいも何となくやわらいで聞こえますが、関西方面の影響があるのでしょうか。冬の降雪のこともうかがい、これからの富山の四季を楽しみにしております。

今後、新しい環境の下で、学生とともに専心研究や勉学に勤めたいと思っております。

諸先生方には何かにつけてお世話になりますこととありますが、よろしく御指導の程お願い申し上げます。

## 新任のご挨拶

教育学部助教授 山 崎 高 哉

奈良に生まれ、奈良で育った私にとって、雪国は子どもの頃からの憧れの対象であった。その憧れは、学生時代山陰の冬を旅して一層強められた。しかし、もとよりそれは単なる憧れ、「旅行者」の美的観照であるにすぎなかったことは言うまでもない。今春、富山大学への転勤のお話を頂いた時、私は、昨年末から今年にかけての「豪雪」の報道を「生活者」の実感をこめて想起せざるを得なかった。

だが、生来楽天的でロマンチスト(?)である私は、かの万葉時代において、いかに「大君<sup>おおきみ</sup>の任<sup>まけ</sup>」とはいえ、「青丹吉<sup>あそによし</sup>奈良の都」から「しなざかる越<sup>こし</sup>」に下った大伴家持の「大夫心<sup>ますらを</sup>」を意気に感じ、『万葉集』に歌わ

れた自然を数多く残しつつ、もはや「天離<sup>あまざか</sup>る鄙<sup>ひな</sup>」ではない富山行を決心した。

富山へ来て早や2か月余り、私は、家持のように歌を贈ってくれる女性を持たぬ代わりに、病気にも罹らず、時にうまい酒と魚を囲み宴する先輩諸先生方と、真面目な学生諸君とに恵まれて、毎日心楽しく研究・教育生活を送っている。ただ一つ欲を言わせて頂ければ、「すめ神<sup>かみ</sup>の領<sup>うしほ</sup>き坐<sup>いま</sup>す」立山の秀峰を仰ぎつつ逍遙し、思索と議論に耽けれる静逸がもう少しキャンパスにあれば申し分ないのだが。それはともかく、今私は、富山大に赴任してよかったとつくづく思う。皆様方のご指導ご鞭撻を切にお願い申し上げる次第である。

## 新 任 の 弁

教育学部助教授 樋 口 哲

長野市からまいりました。家内の里は信州でも眺めのきく須坂市です。家内が、幼い頃、父が西方のアルプスを指さして、「あれが越中の立山だ」と言ったときの立山の印象を今もって、はっきり覚えていると申します。私はついぞ、立山を知りませんでした。

この3月中旬の快晴の朝、大学へ提出するために須坂の保健所へ健康診断を受けに行きましたので、期待を持ってアルプスを望みました。白銀に輝やくアルプスを中景の青い山なみが豪快に立ち切っており、その真上にお椀を伏せたような形の白い嶺が、遠いだけにやや調子弱く、ひとときわ高く屹立しておりました。

ひと目で立山と直観しました。「あの山の向こうに富

山がある」。そのとき、富山の映像は身近になり、運命の糸に引かれている自分を予感しました。

こちらの気候にも馴染み、生活も板につきつつあります。世評どおり魚はおいしく、のびやかに広がる水田、市内電車の通る街、あかあかと丘陵に沈む夕陽など豊かな情緒です。お会した先生方、事務の方にも親切にして頂いたことを心から感謝しております。

研究室、アトリエ、図書館も充実しており、研究室の窓からは立山も見えます。人生の大きな転機に、環境に恵まれました。いい授業ができるように努力するつもりです。どうぞ、よろしくお願い致します。

## 富 山 に 戻 っ て

教育学部講師 清 水 健 次

生まれも育ちも、そして大学も富山の僕だけれど、北陸の暗さみたいなものが嫌で、仙台、大阪と移り住んだものの、また富山に戻って来てしまった。富山に住んで良かったと思うのは、冬の晴れた日に立山連峰を見る時ぐらいなものだと富山大橋を走るバスの中でよく思ったものでした。しかし、「ドクターでタクシードライバー」が僕等の分野で常識になりつつある現在、

僕のように職に就けたということは大変幸運であると思っています。富大のキャンパスは僕のいた頃と比べて図書館が新しくできたりしていますが、何よりも学生達が僕のいた頃よりずっと生き生きとしているように見え、良いことだと思うし、また一番嬉しいことでもあるのです。

教授も助手も学生も、皆いっしょくたという大学院

生活を過ごしてきた僕にとって、ここ教育学部は大学院がないせいか、まだ仕事に馴れていないせいか、何となく堅苦しさを感じるのです。実験室の真空ポンプのあの単調な音を聞いている時か、学生達と話している時が、僕には一番楽しい時間です。どうやら11年間

の大学生活でしみ込んだ学生気分は簡単には抜けないようです。そのせいか、学生達も僕を教師だとは余り気付かないようで、多分僕を教育学部8年生ぐらいと思っているのではないかとと思っているこの頃です。

## 富山に来て

教育学部講師 辰 巳 昭 典

私が富山という場所を肌で感じたのは、家の高さと同じくらい高く積もった雪を見た時でした。

大阪で生まれ育ち、名古屋で下宿住いを送った私にとって、雪の壁が人間を見下ろすという光景は、写真以外では見たことがありませんでした。ところが、電車が富山駅に着き、駅前に出ても、北陸＝遠い所という私の今までの貧弱なイメージが少し違うのです。それは、大阪や名古屋ではもう無くなってしまった路面電車のせいでしょうか。それに、皆様が暖かく迎えてくださったおかげだと感謝しています。

ところで、もう3年も前に学生生活を終えたのに、いまだに、学生と間違われます。富山に来てもう4回も「学生さんですか?」と聞かれました。その度、自分の自覚の足り無さや、知識の乏しいのを指摘されているように感じ、恥ずかしく思います。しかし、実際事あるごとに、専門の音楽のことですら、知らない事柄の多いのに自分で驚く始末です。

このような未熟者ではありますが、御指導をよろしくお願いいたします。

## 富山大学に勤務して

人文学部講師 寺 津 典 子

富山で生まれ高校まで富山で過ごした私は、今春から富山大学への就職が決まり、忙しく過ごした東京での7年の大学、大学院生活に別れを告げ、新しい生活の第一歩をあゆみ始めています。まだ教える学生と年があまり違わないので、何となく「先生」と呼ばれて変な気がする毎日です。よき教育者であろうとすればするほど、自分の勉強がおろそかになりがちであり、目下、研究者と教育者の板ばさみ状態に苦しんで、その両立性を模索中という感じです。しかし、東京の雑

踏から離れて、毎日神通川や呉羽山をながめて暮していると、精神的には少し余裕ができてくるような気がします。研究者としても教育者としても、これからの長い人生のまだほんの最初の部分を過ごしたただけなのだから、ゆっくりあせらず、しかし着実に進んでいきたいと思います。東京の大学にくらべ、雑誌や書籍論文の入手に関して、また文献の数に関して不便を感じる時もありますが、豊かな自然の中で落ち着いて学問できる喜びを大切にしたいと思います。

## 数学を愛せるように

理学部教授 北 野 孝 一

誰もが新緑の若葉のなかに、何かしら生きて活動しつつあるものを感じる。それは、秋の枯葉に感ずることのできない「ある何ものか」である。それから、現代一流の作曲家による曲を聴いて、「すばらしい」と思う人は相当多いと思う。しかし、現代一流の数学者の論文を読んでわかったような積もりにもなれる人がどれくらいいるだろうか。ほとんどいないだろうと思

う。こうみえてくると、数学というものは大部分の人々に理解されていないということになる。しかし、数学者連中は出たら目でないか「真理」を追求しているに違いないと、一般には信じられている。それも論文が読めない以上確かめる術がないので、何時までたっても単なる「信用」の域を出ることはあり得ない。従って、信じたくない人は信じない方が精神衛生上極めて

よろしい。数学の論文に出てくるものと言え、一見したところ、火星人(?)の使っている記号とか文字のようなものもあるし、読んでみると、まるで魔女でも唱えるようなわけのわからない呪文のようではないか(魔女の方が怒るぞ!!)。ところが、時には数学が役立つことがある。しかるにである。数学者連中ときたら「役に立つ数学」をつくるなんて全然念頭にないのである。(ユルセナイ!!) さらにつけ加えるならば、古今東西数学のために泣かされた人間の何と多いことか。

以上により次の結果を得る。

定理：数学者連中は反社会的気違い集団である。

この定理から導かれる「系」は多くて、10年間分(?)位の学園ニュースを使用することになりかねないので、与えられた字数で挙げることは不可能である。(勿論、「題と内容が違う」と思った人はいないと確信している!!)最後に、なにせ若輩の身、皆様方の暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

## 留学中に会った二人の話

— ケナンとライシャワー —

経済学部講師 武 井 勲

ライシャワー教授は、容貌、立居振舞共に端麗な紳士で、チャーミングな人とはこのことであろうと思われた。世界史上、国家形成以来、民族の独立自治を殆ど間断なく維持してきた国民は、朝鮮民族と日本人だけである。日本は文化、学術水準が高い。米国は日本に見習うべしである。特に、日本人は合意に基づいて事を運ぶ天才である。一朝有事に団結できる稀有な才能がある。一方アメリカ人は議論上手の合意下手である。その日本人でさえうまくゆかないことは、ただ一つ英語教育である、と言われ参席の日本人は思わず哄笑させられた。

ケナン教授は、世界の火薬庫が日本に隣接しているのだから、平和、安全保障に深い洞察と賢明な政治が要請されるという意味のことを話された。時恰もニクソン大統領崩壊の数か月前であった。「外交は内政の延長。国民の支持のある政府が外交の相手である。日本は民意を反映しない政府と外交交渉をするだろうか」、「中国の諺に、壇家の多くなった宗教と古くなった魚は必らず腐る。それも頭から腐る」満場の爆笑も意味深長に響いた。

学生時代から憧れの碩学に接し、英知の人間を洗練することの無限を思い、芸術的ともいうべき講演に目を開かれる思いがした。(1977.6.21)

## 新任にあたって

経済学部助手 小 郷 直 言

大阪から富山にやってきてはや3か月になろうとしています。現在までのところ、しごく快適な研究生活を送っております。この理由の一端には、長年の大阪暮らしでしみこんだ「認識構造」を強引に富山での生活に当てはめて、それが順調に機能していると一人合点しているところにその原因が多分にあるようです。

しかし、これからしだいにこの虚構が崩れ、いたるところでコンクリクトが生じてくることと思われます。

しかし、安易な妥協や無関心によることなく、建設的な対立(creative conflict)の存在を信じ、より高いレベルでの統合の可能性を目ざして努力していきたいものです。

蛇足になりますが、赴任早々、急性虫垂炎で市民病院の五福分院に入院しましたが、そこでの看護婦さんの親切さが今も非常に印象に残っております。

## 阪 神 優 勝 !!

経済学部講師 出 井 文 男

友人「富山はどうや。」

わたし「どうやいわれてもこまるけど、そうやなあ、

雨がよう降るわ。晴れた日にかさもってても、

富山やったら、わらわれへん感じや。」

友人「食べものはどないや。さかなはおいしいか。」

わたし「そんな気もするけど。大阪のさかなはどうや

ったかなあ。とび魚のさしみはじめて食べたけど、あれはうまかったで」

友 人「ほかにかわったことあったか」

わたし「神戸大学は坂道ばかりやったけど、富山は平地で歩きやすうてええわ」

友 人「ゼミはちゃんとやってるか」

わたし「ああやったらどうやろ、こうやったらどうやろと苦心してるわ。こっちにもええ勉強になるわ」

友 人「ことし阪神優勝するやろか」

わたし「この分ではことしもあかんかもしれんなあ」  
二人タメイキ。

## Bookish Malcontent 登場

教養部講師 伊 里 松 俊

自分から言うのはなんだかおかしいが、大学院以来僕の仇名は“Bookish Malcontent”らしい。僕がなにかにつけて不平をもらす、「不満の徒」であり、その意見や話は書物的知識が勝っているというわけである。この仇名は、大学院生時代先生方からありがたくも頂戴した言葉を繋げたものだ。一時は仇名が表わす人物像から必死に逃れようと努めた。しかし、近頃の僕は、そのレッテルに甘んずるようになった。否、むしろそれを演ずることに喜びを見出している。学者として、

また良心の徒として“Bookish Malcontent”であり続けたいと思っている。

3か月ほど前、僕にとっては感動的なことであったが、生まれて初めて北陸トンネルをぬけ、富山へやってきた。それ以来自分の生活環境の長短が僅かながらわかってきた。不満も少しずつ出ている。雄大な山々に臨むこの北国で、“Bookish Malcontent”という仮面の後ろに、これからいったいどんな僕の素面が成長してゆくのだろうか。僕はそれを興味深く見守りたい。

## あ る 履 歴 書

教養部講師 勝 野 良 一

郷里は三重県北部の漁師町。50余年前、活弁屋上がりの祖父が名古屋からそこに移り、映画館を建てる。1933年誕生、映画を見ながら成長する。また私の無類の釣り好きは、この祖父に負っている。

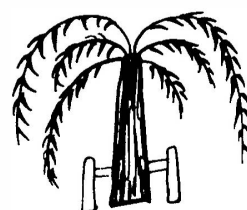
小学校3年、太平洋戦争が始まる。やがて空襲警報のさなかに旧制中学に入学。敗戦、配属将校は天を仰ぎ、その所作に私たちは笑った。映画館の売却、祖父の死、わが家は寒かった。1951年、高校をひどい成績で卒業、ある陶器会社に入る。湿気と塵埃のなかでの数年、ひそかにフランス語・イタリア語と戯れた日々でもある。結核発病、津市郊外の山のなかの療養所での長い生活の始まりである。引き続き西洋語、そして所内の図書室で見つけた朝日新聞社版「日本古典全書」が、病気の回復を妨げることになる。また夏の晴れた日と冬の雪の日とを選んで堀辰雄の「風立ちぬ」をひもとくことが当時の精神の年中行事であった。

1966年、33歳、病気を抱えたまま京都大学に入学、それは同時に療養所が三重から京都に移ることを意味していた。洛北深泥池の畔の幽霊話の賑かな病院での日々は、しかし多くのことを教えてくれたと思ってい

る。そして病気からの生還、それは少年の日に一旦手放した釣り竿を再び手にすることでもあった。晩春の磯、夏の夜の河口、秋の雨中の川辺、魚影のなかに遠い日の祖父の慈顔があった。

1977年4月、10年余の京都での生活に別れを告げ、前年縁あって結ばれた妻と共に、北陸線の車中の人となる。鯉釣りに通い慣れた奥琵琶湖は春雨のなかに霞んでいた。名状し難いさびしさに私は懸命に耐えていた……。

とまれ、かつて趣味として始めたことを、職業——私はこの言葉を本来の意味で使っているのだが——とすることとなり、私の感慨は深い。そして、他界した療友たち、今も病床にある療友たちの存在が、私の肩に重い。





## ALLEN JAPANERN AN DER UNIVERSITÄT TOYAMA

Roland Schmidt

Es gäbe so vieles, worüber man schreiben könnte und möchte, wenn man - ein Europäer - die Möglichkeit erhalten hat, nur mit Japanern zu leben und als Angestellter des japanischen Staates zu arbeiten und dieses so interessante Japan auf diese Weise nicht nur in einer beschränkten Perspektive kennenzulernen, sondern sich ihm in gewisser Weise ganz auszuliefern. Dies wird aber nur dann zu einer bereichernden Erfahrung, wenn man den Menschen vertrauen kann, und das um so mehr, als man die Sprache nicht beherrscht, das wichtigste Medium, in dem und durch das man sich den anderen Menschen als Person darstellen kann. So wird verständlich, wenn ich allen Japanern so dankbar bin, die mir dieses Gefühl des Vertrauenkönnens und Vertrautseins gegeben haben. Die vor dieser Erfahrung empfundene Unsicherheit und Ungewissheit kann sich so in die Bereitschaft wandeln, sich dem Fremden auszusetzen und sich in dieses Fremde hineinziehen zu lassen: als Europäer, der Europäer bleibt - und nicht in dem unsinnigen Versuch, wie ein Japaner zu werden. Aber es ist auch falsch, nur zu sagen: als Europäer; viel richtiger, aber so schwer auszudrücken ist: die japanischen Kollegen, Studenten, Bekannten und Freunde werden mich in dem Maße in ihr Denken, Fühlen, in ihre Lebensweise und ihre Kultur einführen und mich mit ihnen vertraut machen, als sie sich ihrerseits öffnen und das zu verstehen suchen, was ihnen der deutsche Lektor durch die deutsche Sprache an europäisch-deutscher Kultur vermitteln kann. Dies ist kein Paradox, dies ist Dialektik; denn Sprache ist Kommunikation. Eine fremde Sprache zu lernen ist ein geistiges Abenteuer: man lernt ja in der Sprache und mit ihr eine fremde Kultur, eine andere Art zu denken, zu fühlen etc. - und: man lernt die eigene Kultur, Gesellschaft, sich selbst durch den Spiegel der anderen Kultur neu sehen. Dies ist etwas anderes, als die fremde Kultur einfach zu übernehmen und sich ihr anzugleichen: es ist viel schwieriger und für die Japaner - die Gründe brauche ich nicht zu nennen - von größter Wichtigkeit.

Allen Japanern an der Universität Toyama, die sich in diesem Sinn mit der deutschen Sprache beschäftigen, stehe ich gerne zur Verfügung.

*Roland Schmidt*

## 挨

## 拶

工学部助手 黒 田 重 靖

私は生まれてから大学4年まで富山に居りました。そのせいか、富山に転職して来ましてもさして感激もありませんでした。仙台に住んで7年でしたが、家庭のこともあり富山に職を希望しておりましたところ、縁あって、工学部に参りました。新しい環境でもあり、まだ十分に慣れておりませんが、現在は身の周りを整えることで精一杯の状態です。

工学部は初めての所でもあり、これまでの状態とはかなり異なっているというのが第一印象でありました。五福とは場所も離れており、気風も違うようなところ

も所々にあります。まだ勉強不足でよく分かりませんが、設備、あるいは人的充実を計る点から、工学部が一日も早く五福に移転した方が良いということを強く感じます。

研究にとって環境は大きな要因となりますので、その点を理解して戴きたいと思います。特に新任として述べる様なことも見当たりませんが、これからも今までの気持を持続させ、一生懸命やってゆくことが出来れば幸いと思っております。

## 呼吸の話あれこれ

教育学部助教授 山 地 啓 司

人間オギャーと生まれて、とにかく死ぬまで呼吸をしなければならないと考えると、うんざりする。ところが、ヒトの体はうまく出来たもので、体の生命に係する多くの器官は無意識の中に作用(不随意的作用)している。しかし、それらの器官の中で、呼吸は完全に不随意かという点、そうではない。意識的に吸ったり、止めたりすることができるので、半不随意的器官と呼ばれている。考え方によれば非常に便利なものである。呼吸が他の器官と比べてなんとなく神秘的で、気になるのはこんなところにあるのかも知れない。

古来から、呼吸をコントロールすることによって、不随意的なものを随意的にコントロールする試みが、宗教あるいは心理学の場で行われている。その例は、ヨガとか禅の場合に認められる。また、日本の伝統的な茶道、華道においても、呼吸は、“わび”とか“さび”を表現するために重要である。

運動においても、呼吸は大切である。運動にみられる呼吸はリズム(タイミング)のためのものと、酸素を体内に摂り入れるためのものと、2つの働きが考えられる。例えば、重量挙げを行う場合には、空気を吸いながらや、あるいは止めた状態よりも、空気を吐きながら力を出す方が4~5%成績が良くなる。また、走っている時の疲労の程度を判断する場合、呼吸のリズムの乱れは良き指標となる。

呼吸を行う場合、鼻で呼吸するか、口で呼吸するか

によっても、その内容は異なってくる。興味深い実験例を挙げると、ネズミを口呼吸のグループ(Aグループ)と鼻呼吸のグループ(Bグループ)とに分け、少量の一酸化炭素を空気ガスと混合し、そのガスを両グループに等しく暴露すると、AグループはBグループよりも呼吸量が多いにもかかわらず、Aグループのネズミの生存時間はBグループよりも50~60%長い。この両グループの呼吸法にみられる生存時間の相違は両グループの呼吸法による一酸化炭素肺泡拡散容量(肺泡にある一酸化炭素が血中へヘモグロビンと結合するまでの能力)に相違が認められないことから、どうも鼻の粘膜における感受性に原因するようである。原因はともかくとして、この実験結果は、火事に際して有毒ガスを呼ぶ恐れがある場合、鼻呼吸よりも口呼吸で避難する方が良い、ということになる。

酸素を体内に摂り入れる場合、鼻呼吸の方が口呼吸よりも効率が良い。従って、ランニングしている時には口呼吸よりも鼻呼吸の方が望ましいことになる。日常生活の中で、口を開けて呼吸していると、口を閉じて呼吸しなさい、というお年寄がいる。どうも礼儀上から注意しているようだが、生理学的にも納得のゆくことである。ある身障児を長くみてきた人の話だと、赤子で鼻とか喉に別に異常がないにもかかわらず、口を開けて呼吸をしている時は、どこかおかしいと思ってみるとよい、ということである。その信ぴょう性のほ

どは判らないが、なんとなく判るような気がする。

考え事をしている時の理想的姿がロダンの「考える人」に認められる、という。まず、明らかに鼻呼吸であり、首の傾斜角度は最も気道、血管の空気や血液の流通を抵抗が少なく行える姿勢である。すなわち、スムーズに体内に酸素を摂り入れ、脳に酸素を送り、脳の働きを活発にし、しかも疲れさせない姿勢であ

る。ロダンは生理学なり、解剖学を学んだかどうかは知らないが、美的感覚と生理学的理屈とが不思議に一致するのは興味深いことである。

話が散文的になってしまって恐縮だが、呼吸は吐くことに始まる。なぜならば、吐けば空気は自然に入ってくるからである。その時、口呼吸よりも鼻呼吸の方が望ましい。(1977.3 教育学博士の学位取得)。

## トリチェリの真空

教育学部助教授 中 井 学

もし物体に摩擦がなかったなら、どのようなことになるであろうか。まず我々が大学の正門からはいるときのことを、想起してみよう。くつを地面に定着することができないであろうし、からだの不安定から門柱につかまろうとしても、それもできないであろう。車ではいろいろとする人にも同じようなことが起きるであろう。同様に、本や筆記具を持つこともできないし、それではとそれを手に縛り付けようとしても、またねじで留めようとしてもだめである。摩擦が小さくなり過ぎると、物事がスムーズに進むどころか大混乱に陥るに違いない。

「潤滑」という分野は、“荷重をささえる2面間の摩擦抵抗や摩擦または他の形の表面損傷を潤滑剤を供給して軽減させること”などを内容の1つとするもので、機械工学、物理学、化学などに関係した複合的な性格をもっている。最近、ヒトの関節の動きの研究などから、医学の方面でも研究されている。「潤滑」の研究対象を具体的に示せば、軸受が代表的な1つであり、その中には一般的なころがり軸受やすべり軸受から、特殊なものでは、空気を潤滑剤にして軸を浮き上がらせた空気軸受や軸を磁気支持した磁気軸受もある。磁気軸受は宇宙空間でも作動可能であることから注目されているが、この軸受には潤滑剤がないので、“油屋”、“空気屋”など従来の“潤滑屋”は不用であり、新顔の“制御屋”さんがこの研究をしている。

磁気軸受は摩擦がほとんどないので、毎分2,300万回転で回した例もある。毎秒に直しても、約38万回転である。ジェットエンジンなどいかにも速そうに回っているが、あれは毎分1万回転前後である。いずれにしても、摩擦を減らすことはエネルギーの節約につながるもので、現代のような省資源の時代にはたいせつなことであり、人類の活動においても同じことがいえよう。

ところで、水は1気圧のもとでは、0℃と100℃のあいだで液体、100℃以上で気体になるのが普通であるが、100℃以下で気体であることもできるし、100℃以上で液体であることもできる。このようなことはすべり軸受の潤滑油中においても生じ、油膜圧力が潤滑油の飽和蒸気圧以下に下がってもキャビテーションが生じないで、極端な場合には、絶対圧0以下に相当する張力にまで下がる。これは準安定の状態であり、ファンデルワールス等温曲線のうねりによって説明されるが、水の場合、実験的に-270気圧が生じたという記録もある。10mより深い井戸の水をポンプであげることは困難であるとされているが、これだと2.7kmの深さの井戸から水をあげたときの張力に相当する。

おしまい、ほんとうの“余話”を書かせていただくと、「同様に考えれば、あの有名なトリチェリの真空が生じないこともあるのでは?」。物理学専攻の皆さん、いかがでしょうか。(1977.2 工学博士の学位取得)

## 南十字星の下で (白鳳丸KH-76-5次航海)

薬学部助手 市 川 敏 弘

12月21日螢の光に送られて、白鳳丸は、晴海埠頭を出港していった。針路を南にとり、インド洋に向かって遠洋航海だ。彼女とはもう長いつきあいになるが、

2年前のベーリング海以来、しばらくぶりの再会だ。出港前というものは、いつでも仕事に対する不安と興奮、未知の海へのあこがれ、異国の港への期待などの

入りまじった一種独特の気分の中におかれる。白鳳丸は、東大海洋研究所の大型研究船で海洋研究者の共同利用とされ、世界の海を走り回っている。

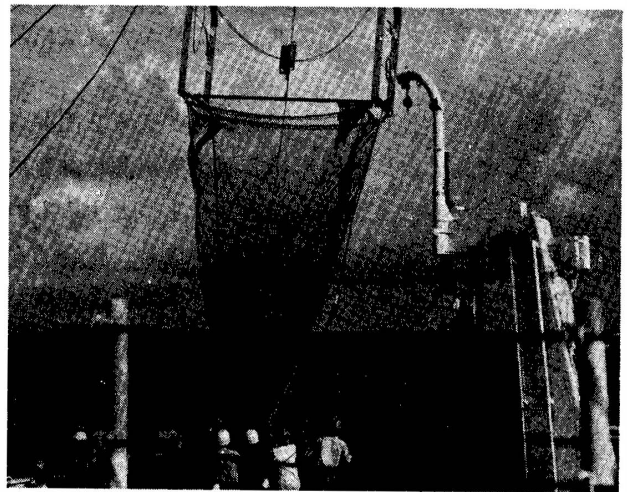
今度の航海の研究主題は、東部インド洋及び東南アジア海域の生物群集に関する総合的研究で、主な研究内容は、次の通りであった。①微生物(分類、生態、活性)②プランクトン、マイクロネクトン③深海系底生生物④海中の生化学的活性と物質循環。航程1万3千マイル、航海日数85日、調査海域は西部北太平洋、東部インド洋及び南シナ海の熱帯、亜熱帯海域だった。

海洋観測は肉体労働が多いので、調査員は大学院や助手クラスの若手が多い。私は、微細植物プランクトンの定量と好気栄養細菌の分布という2つのテーマを持って乗り込んだ。観測点に着くと、ただちに甲板作業が開始される。採水、生物採集、採泥等のための器械がワイヤーにつけられ、5千メートルの深海に降りてゆく。サンプルが上がると実験室での処理に追われ戦場のような騒ぎになる。観測作業は昼夜通して、時には4～5日も続く。しけの中を船酔いをがまんしながら作業するのは本当に苦しい。何の因果でこんなひどい目に会わなければならないのかと自分が恨めしくなる。実験室がグラグラゆれるのだからたまったものではない。器具は固定しておかないと、とばされてしまうし、物がこわれても買うことができない。

しかし、遠洋航海には楽しいことも多い。1月2日赤道を通過して南半球に入った。南の海は実に美しい。5年ぶりの再会だ。南洋の落日の美しさはとても形容できない。熱帯特有の雲が、黄、紫、赤と刻々と色を変え、やがて太陽が沈むと、ほんの一瞬空が緑に光る。グリーンフラッシュと言われている。大空はまっかに燃え始め、空と海との奏でるアンサンブルはクライマックスに達する。やがて暗くなると、星が輝き始め、

南十字星が美しい。こんなすばらしいロマンチックなことはない。日昼でも、トビ魚が群れをなして飛び、イルカが船と競争し、時には、クジラの大群が潮を吹いてゆくのが見られる。アッパーデッキによじ登っては毎日海をながめていたが、何時間見てもあきることがない。海が広いということも航海に出て始めて実感できる。一仕事終えて外国の港に寄港するのも楽しみの1つである。

今回は、スラバヤ、コロンボ、ペナンの3港で、南国のエキゾチックな美しい所だった。いろんな研究者と知り合い、現場でさまざまな話が聞けるのも研究航海の利点である。仕事もあそびも、そして嵐の時も静穏な時も生活を共にするのだから、親密な連帯感が生まれる。インド洋を南緯20度まで下り、北上しながら観測を続け、マラッカ海峡を通り、南シナ海を調査して、大シケのバシー海峡をぬけ、東シナ海での最後の観測を終了したのが3月10日。3月15日東京に帰港。彼女としばらくのお別れだ。またいつかいっしょに行こう、あの美しい南の海へ。



(底生生物採集用のトロールネット)

## 保健管理センターについて

保健管理センター所長 有 沢 一 男

保健管理センターも発足以来2年の歳月が過ぎました。その間、学生相談は学生会館の一室で、健康相談・栄養相談・医療処置等は人文学部の一室を借り受け不自由な活動を続けている現在であります。

又、定期健康診断では狭隘な場所で学部毎に日と所を変えて実施するなど専用建物のないことから、学生

及び教職員の皆様に大変御迷惑をおかけ致して居ります。

今日当センターの何よりの望みは、よりゆきとどいたサービスをさせていただくためにも専用建物の1日も早く実現されん事であります。

# 保健管理センター利用状況調

(昭和 51.4 ~ 52.3)

## (1) 病類・学部・男女別

病 名	学 部		文 理		教 育		経 済		薬 学		工 学		教 養		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
風 邪	148	41	15	53	159	3	387	373	159	0	309	86	1,177	556		
胃 腸 の 疾 患	36	12	6	26	21	5	211	224	94	0	156	62	524	329		
打撲・捻挫・突き指	46	15	24	71	48	3	105	142	124	0	146	29	493	260		
切傷・擦過傷・刺傷	170	20	16	103	72	9	273	251	186	0	261	102	978	485		
眼 の 疾 患	13	2	3	26	17	0	77	104	40	0	22	25	172	157		
歯・口腔の疾患	4	5	1	12	7	0	131	222	27	0	23	3	193	242		
皮 膚 の 疾 患	12	2	8	8	9	0	107	158	6	0	25	18	167	186		
火 傷	32	2	0	10	5	0	86	64	15	0	17	1	155	77		
耳・鼻の疾患	1	0	0	1	0	2	20	33	3	0	8	4	32	40		
貧 血	0	0	0	7	1	1	15	67	1	0	13	5	30	80		
健 康 相 談	12	2	0	9	8	0	376	547	0	0	5	6	401	564		
そ の 他	7	0	0	15	4	0	43	77	0	0	15	10	69	102		
休 養	0	0	0	2	0	0	20	51	0	0	0	0	20	53		
計	481	101	73	343	351	23	1,851	2,313	655	0	1,000	351	4,411	3,131		
利用回数(1人当)	1.12	0.45	0.70	0.60	0.56	0.60	16.38	11.62	0.70	0	1.18	1.15	1.44	2.34		

## (2) 学生相談

項 目	件 数	延 人 数
修学・性格に関するもの	50 件	96 人
健康・精神医学に関するもの	20	214
計	70	310

\* \* \*

## 学部だより

### ●経済学部

懸案の新校舎がこのほどようやく完成し、6月1日から使用を始めた。新校舎では上履きを使用することになっているので、他学部のかたも何かの機会に新校舎に入る場合には御注意されたい。(各階に教職員用の上履きが用意されている)。なお、教育実習用のミニコンピュータも今年度中には設置され、来年度から授業も開講される予定である。

### ●学生部

長く北三で知られた、学生総合体育大会が、本年度から富山医科薬科大学の参加で、北四として新しい出発を別記競技日程で実施されます。

なお開会式に於て本学より、別記針山典篤君が連盟表彰されます。

### ●北陸四大学学生体育競技連盟表彰者(本学分)

○水泳競技 針 山 典 篤(工学部生産機械工学科 4年)  
実 績

昭和49年度 富山県水泳選手権大会

100m 平泳 1 位

富山県民体育大会

200m 平泳 1 位

北陸三大学新人水泳競技会

100m 200m 平泳 1 位

昭和50年度 第27回北陸三大学学生総合体育大会

100m 200m 平泳 1 位

200m個人メドレー 1 位

富山県民体育大会

100m 200m 平泳 1 位

北陸三大学新人水泳競技会

100m 200m 平泳 1 位

400mメドレーリレー 1 位

昭和51年度 第28回北陸三大学学生総合体育大会

100m平泳(187北三新)1位

200m平泳 1位

中部国公立学生水泳選手権

100m 200m 平泳 2位

## 昭和52年3月卒業者就職状況調

(昭和52年6月20日現在)

	男子学生						女子学生					
	文学部	教育学部	経済学部	薬学部	工学部	計	文学部	教育学部	経済学部	薬学部	工学部	計
卒業者数	125人	22人	182人	31人	302人	662人	64人	166人	8人	54人	1人	293人
就職希望者数	92	20	175	9	251	547	59	158	4	44	1	266
求人数	751	428	3,087	149	1,929	6,344	199	62	12	18	0	291
就職決定者数	73	16	175	9	248	521	44	140	4	43	1	232
(就職率)	79.3%	80.0%	100%	100%	98.8%	95.2%	74.6%	88.6%	100%	97.7%	100%	87.2%
県内決定者	7人	9人	48人	3人	104人	171人	25人	96人	2人	8人	0人	131人
県外決定者	66	7	127	6	144	350	19	44	2	35	1	101

## 競技日程

種目	期日	開始時間	競技会場
陸上競技 男・女	7月10日	10:00	金沢市営 陸上競技場
野球 男	7月10日(雨天の場合は11日に延期)	9:00	石川県立野球場(金大野球場)
庭球 男・女	7月8・9・10日(雨天の場合は11日に延期)	9:30	石川県兼六園コート 金大小将町コート
軟式庭球 男・女	7月10日(雨天の場合は11日に延期)	9:30	石川県兼六園コート
卓球 男・女	7月10日	10:00	金大附属小・中学校体育館
バドミントン 男・女	7月9・10日	9日13:00 10日9:00	金大医短体育館
バレーボール 男・女	7月10日	10:00	石川県体育館
サッカー 男	6月5日, 6月18日, 7月2・9・10日	14:00	金大城内グラウンド
ラグビー・フットボール 男	6月26日, 7月3日, 7月10日	15:00	金大城内グラウンド
剣道 男・女	7月10日	9:00	金大附属高校 体育館
柔道 男	7月10日	10:00	石川県体育館 柔道場
バスケットボール 男・女	7月10日	10:00	石川県体育館
水泳 男・女	7月10日	10:00	金沢市営プール
ヨット 男・女	7月9・10日	9:00	七尾湾
準硬式野球 男	7月10日(雨天の場合は11日に延期)	9:00	金大野球場 (金大工学部グラウンド)
バンドボール 男	7月10日	10:00	金沢美大体育館
空手道 男	7月10日	10:00	金大小体育館
弓道 男・女	7月10日	9:00	石川県弓道場
体操 男・女	7月10日	10:00	金大体育館
自動車 男・女	7月10日	7:30	北鉄自動車学校
創作舞踊 男・女	7月9日	14:00	金大学生会館ホール
少林寺拳法 男	7月9日	13:00	金大体育館

◎学園ニュース編集委員の交代

教養部 (新) 奥 貫 晴 弘  
(旧) 大 谷 重 彦